

医療福祉活動演習（福祉）	【災害医療コース】
---------------------	------------------

[講義・演習] 第3～4学年 後期
選択

[授業方法：SGD、PBLを含む]
1単位

《担当者名》講師/櫻田 渉

准教授/浜上 尚也 講師/木村 治

特別講師/木内 祐二（昭和大学医学部）

特別講師/亀井 大輔（昭和大学薬学部）

特別講師/根本 昌宏（日本赤十字社北海道看護大学） 特別講師/名倉 弘哲（岡山大学薬学部）

特別講師/桂 正俊（（株）MKファーマシー） 特別講師/越智 哲夫（フィール調剤薬局寿店）

【概要】

災害時に薬剤師が医療の担い手の一員として、特殊状況下（被災地、被災者）に必要とされる医療、薬学の専門的知識、技術の必要性を理解する。さらに、災害医療現場で、薬剤師がどのような職能を発揮するか、さらには、現場での多職種連携についても学ぶ。

【全体目的】

近年、日本では、東日本大震災、阪神・淡路大震災及び新潟県中越大地震など震災が続いている。北海道でも、北海道南西沖地震、火山活動、台風被害等も多く発生している。災害時に果たす薬剤師の役割は、災害の規模、発生の時期（季節）、場所、時間帯等により様々であり、また情報通信の技術進歩等の周辺状況の変化を考慮すれば、将来のどのような場合においても、ある一つのマニュアルどおりに対策を講じることは適当ではなく、個別の事情に応じた創意工夫・臨機応変な対応が必要である。そのためには、様々なシナリオを想定した、より実際に近い体験学習、実技実習を行うことが極めて効果的であり、学生一人一人が想定した状況に立つことにより能動的に学修することが必須である。

【学修目標】

- 災害時の薬局の役割について説明できる。
- セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
- フィジカルアセスメントについて説明できる。
- 患者を中心とした多職種連携について、体験する。
- 特殊条件下において、必要な判断と実践を体験する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	災害時における薬局の役割	<p>地域における薬局の機能と業務について説明できる。</p> <p>セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。</p> <p>災害時の薬局の役割について説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -1 B-(4)- -3 B-(4)- -4</p>	桂 正俊 越智 哲夫 櫻田 渉
4～6	<p>症候学</p> <p>1. 症候学とは</p> <p>2. 症状と疾病</p> <p>症候学</p> <p>1. 患者情報の把握</p> <p>2. トリアージ</p> <p>3. 受診勧奨</p>	<p>症候学について説明できる。</p> <p>症状から疾病を推察し説明できる。</p> <p>災害時の薬局の役割について説明できる。</p> <p>臨床判断について説明できる。</p> <p>【PBL, SGD】</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(5)- -4, B-(4)- -5, E2-(9)-3～5, E2-(9)-8, F-(1)- -1～2</p>	木内 祐二 亀井 大輔 櫻田 渉 浜上 尚也 木村 治
7～9	<p>災害サイクルに応じた活動現場</p> <p>1) 急性期（救護所、避難所）</p> <p>2) 慢性期・復興期（仮設住宅）</p> <p>3) 静穏期</p> <p>災害サイクルに応じた活動現場</p> <p>フィジカルアセスメント</p> <p>1. 血圧</p> <p>2. 心音、肺音、腸音</p>	<p>保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。</p> <p>多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。</p> <p>バイタルサインについて概説できる。</p> <p>バイタルサインの測定方法について説明できる。</p> <p>心音、肺音、腸音の観察方法について説明できる。</p> <p>病態の心音、肺音、腸音の変化について説明できる。</p>	櫻田 渉 浜上 尚也 木村 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	3.病態とバイタルサイン	関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(4)-1~2、A-(5)- -4、E2-(9)-8、E2(9)-4	
10~12	災害時における薬剤師の役割	災害時薬局の役割について説明できる。 災害時における地域の医薬品供給-1 災害時医療について概説で給体制・医療救護体制について説明できる。 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する（態度） 【PBL,SGD】 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -5、F(5)- -2~3	名倉 弘哲 櫻田 渉 浜上 尚也 木村 治
13~15	被災地を想定した避難所における薬剤師の役割	避難所作成（段ボールベッド）について概説できる。 非常食の作成について概説できる。 【PBL,SGD】 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(4)- -5、B-(4)- -4~5、F(5)- -2~3	根本 昌宏 櫻田 渉 浜上 尚也 木村 治

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度40%、レポート60%で評価する。

【教科書】

はじめる・とりくむ 災害薬学 南山堂

【備考】

- ・講義開設の全日程を受講できること
- ・岩手県現地視察（希望者のみ、自費負担）
- ・一次救命救急（異物除去、気道確保、AEDの使用方法）の修得（希望者のみ、教材費自費負担）
- ・多職種連携、他学部とワークショップを開催する（日程は別途掲示）

【学修の準備】

- ・各回ごとに予習復習の範囲を指示する。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項

(4)多職種連携協働とチーム医療

(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成【 学習の在り方】

B 薬学と社会

(4)地域における薬局と薬剤師【 地域における薬局の役割】【 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

E2 薬理・病態・薬物治療

(9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

F 薬学臨床

(5)地域の保健・医療・福祉への参画【 災害時医療と薬剤師】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

櫻田 渉（薬剤師） 浜上 尚也（薬剤師） 木村 治（薬剤師）
木内 祐二（医師） 亀井 大輔（薬剤師） 根本 昌宏（薬剤師）
名倉 弘哲（薬剤師） 桂 正俊（薬剤師） 越智 哲夫（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

櫻田、木内、亀井、根本、名倉、桂、越智は、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震の医師及び薬剤師として支援活動の経験があります。災害時、薬剤師として、何が必要なのか、講義又はグループワークを通して経験して頂きます。